

< 第 5 回 「農村開発」プログラムについて >

皆さんこんにちは。

現在、サセックス大学で修士課程の農村開発プログラム(MA in Rural Development)で学んでいる今西浩明と申します。

このプログラムは、社会文化研究学部大学院(The Graduate School of Social Sciences and Cultural Studies)の文化開発環境センター(the Center for Culture, Development, and Environment)に7つ(Diploma 課程を加えると8つ)ある修士課程のひとつで、履修期間は1年間、秋学期(10月から12月)、春学期(1月から3月)、夏学期(4月から6月)それぞれ10週間、合計3学期における各科目の履修及び9月までに執筆、提出する修士論文によって学位を習得することになっています。秋および春学期はそれぞれ2科目を履修、夏学期は選択で、1科目を履修すると修士論文は10,000語以内となり、履修しない場合は修士論文が20,000語以内となります。

今年の農村開発プログラムで学ぶ学生は例年より多く合計31名で(去年は15名程度だったそうです)、そのうち日本人学生は5名で二番目に多い出身国となっています。その他には地元英国が14名、ついでガーナ4名、カナダ3名、ポルトガル、イタリア、フランス、シェラレオーネ、中国からそれぞれ1名となっています。男女構成もほぼ半々で、年齢層も今年大学を卒業したばかりの20歳台前半から経験豊かな50歳台まで幅広く、また、これまでの経歴も、政府、NGO等を通じた途上国での開発援助のフィールド経験豊かな方や、民間企業を経て学びに来た方などバラエティに富んだ構成となっています。

現在、秋学期で「開発及び低開発理論(Theories of Development and Underdevelopment)」と「持続可能な開発(Sustainable Development)」の二つの科目を履修しています。「開発及び低開発理論」では、政治、経済、人口、ジェンダー、文化など毎週違った分野別に、開発理論及びその変遷の過程や歴史、現在の課題について学んでおり、週1時間の全体への講義と全学生を2つに分けた(1グループ約15名)2時間のセミナーで構成されています。セミナーでは各個人が10週間の中で2回の発表をすることになっており、これを元に議論を深めています。このコースは今年から開設された「社会開発プログラム(MA in Social Development)」との共通科目になっており、開発理論の基礎を学ぶ授業といえるでしょう。

「持続可能な開発(Sustainable Development)」は、その名の通り、現在の開発分野で最も重要な課題の一つである「持続可能な開発」について、プログラム全体の学生を対象にした3時間のセミナーもしくは全体を2グループに分けたそれぞれ2時間のセミナーで学んでいます(週によって変動)。全学生を4-5人のグループに分け、事前に与えられた課題についてそれぞれのグループが文献を調べ、議論し、その結果をセミナーの中で発表します。課題には「本当に貧困が環境悪化を招くのか?」「人口増加は環境破壊の主要因か?」など、我々が常識として考えがちなテーマについて批判的に検討さ

せるものもあり、セミナーでの発表をもとにした議論と指導教官の講義によって、その理解を深めています。

両科目とも、最終的には来学期の始めが提出締め切りの 5,000 語以内のレポートによってのみ成績が評価され、9 週目に入った現在、レポートを書くテーマを絞り、その調査、探索のため図書館やインターネットによる検索、また指導教官にアドバイスをもらうなど、日に日に忙しくなって来ているところで

今後の予定として、春学期には「援助とプロジェクト(Aid and Projects)」と「農村の変革プロセスにおける国家と小作農(The state and the peasant in the process of rural transformation)」の 2 科目を履修予定ですが、このうち一科目は、代わりに他のコースから関連科目を履修することも可能となります。夏学期は、先ほども述べたように修士論文が 10,000 語以内の場合に、「環境と開発におけるトピックス (Topics in Environment and Development)」又は「地理情報システム(Geographical Information Systems)」のうち一科目を履修することになります。

以上のように、当プログラムの名称は農村開発ですが、単に農村開発に関する事柄だけでなく、一般的な開発に関する理論から、途上国における農村開発の課題に対する具体的な取り組みまで幅広く学べるプログラムといえるでしょう。

(コース等の日本語訳は筆者による勝手な訳で、大学の公式なものではありません)

2003 年 11 月 25 日

農村開発修士課程 今西浩明



(図書館の前のミーティング・ホール)